



Japanese Day 6月4日(火) 5日(水)

6月4日と5日は恒例の Japanese Day で、本校と交流のある Burnham Grammar School の6年生(12歳)約120名が来校しました。本校の生徒が3つのグループに分かれ、茶道、浴衣の着付け、折り紙、お好み焼き、剣玉、書道、日本語と盛りだくさんの日本文化を紹介しました。午後は、英会話の授業で準備をしたプレゼンを、帝京生が全員の前で発表しました。日本のスナック、温泉、日本の四季、キャラクター、スクールユニフォームなど興味深いタイトルで、喚声上がるシーンもたくさんあり、質問も多く出ました。Burnham Grammar School の生徒たちは毎年この日を心待ちにしているそうです。お昼も唐揚げ、照り焼きサーモンでしたので、心もお腹も日本色一色で大満足で帰って行ってくれました。本校の生徒はハードスケジュールでクタクタになった2日間でしたが、日本大使のお役目本当にご苦労様でした。(久保)



旅行作文コンテスト

5月のホームステイ・研修旅行を題材にした、毎年恒例の作文コンテストを実施しました。ブライトン・イタリア・スペインで、それぞれが直接肌で触れ、感じたことを、みな工夫を凝らし、思い思いに綴って応募してくれました。その後、教職員全員で審査し、受賞作品を選出しました。作文には盛り込むことができなかった多くの思い出を抱えていると思うので、帰国した際には、ぜひ聞いてあげてください。(初田)



人と話すこと 1年

「外国人と話すとき、最も大切なことは何か。」そう問われたとき何と答えるだろうか。単語力、文法力、発音、他にもさまざまな答えがあるだろう。私はブライトンでの7日間のホームステイを通し、自分なりの答えをみつけることができた。

ホームステイ初日、相手が初対面かつ外国人ということもあり、私はひどく緊張し、ホストファミリーに自分からあまり話そうとしなかった。また、話しても上手く伝わらないことが多く、英語を話すことが怖くなった。そんな中、ホストマザーは私に、「もっとたくさん話して。」と言った。私に最も足りなかったのは単なる英語力ではない積極性すなわち相手に伝えようとする気持ちだったのだ。



それから私は、たとえ上手でない英語でも、相手に伝えようと思って話すようにした。すると、以前よりもたくさんことが伝わるようになり、すごく嬉しかった。話すことが怖かった英語が好きになり、もっと話したい、もっと伝えたいと思うことができた。ホストファミリーと話すことが楽しくて、充実した毎日となった。

私は、外国人と話すとき最も大切なことは、相手に伝えようとする気持ちだと思う。また、このことは相手が外国人でなくてもいえることだと思う。私はこれから高校3年間、さらには社会人になってからも、人と話すたくさんの機会がある。そんなとき、相手が誰であってても伝えようとする気持ちを大切に、たくさんの人と繋がっていききたい。そして、今よりもっとグローバルな社会を築いていきたい。

光 2年

ヴァチカン市国。キリスト教カトリックの総本山であるそこには、世界中からたくさんの方が訪れていた。敬虔なキリスト教徒から観光目的の仏教徒まで、目的も人種も宗教でさえも様々な人たちが一堂に会する。穏やかな陽光に見守られたサンピエトロ広場には礼拝用の椅子がずらりと並び、その数が多くの信仰を集めていることを物語っていた。

サンピエトロ大聖堂内部には非常に精工かつ豪華な装飾が施されていた。例えばヴェルサイユ宮殿やヴェッキオ宮殿のように。私は前々から、教会に豪華な装飾は不要だと思っていた。宮殿のような装飾は、見る者を圧倒し、気分を落ち着かなくさせる、静かな祈りの場所である教会にはそぐわない。さらに、清貧を謳う教義に対して豪華に飾ることに少しの皮肉を感じる。それが私の見解だった。しかし、サンピエトロ大聖堂の豪華さは荘厳で静けさに満ちていた。教会の中央奥に位置する金の天使に縁どられたステンドグラスには、オレンジのガラスがはめ込まれ、柔らかな光で父なる精霊を優しく浮かび上がらせる。響き渡るミサの声は聞くものを落ち着かせ、安らかな気持ちにさせる。その声は信仰を持っていない私にも優しく語り掛け、私は「祈りたい、祈らなければ」と自然に手を組んでいた。そして、それは私だけでなかった。人種も見た目も実に様々な人々が皆一様に静かな祈りの中にいた。



宗教に発端を持つ争いは今も昔も絶えず行われてきた。現代人の中には、自分の信仰を持たず、信仰自体を否定する人も少なくない。かくいう私も以前はその一人であった。しかし今はそうは思わない。サンピエトロ大聖堂で見た光景は「信仰こそが平和をもたらすのではないか」という考えを抱かせるには十分すぎるほどだった。何かを信仰することは、人の心をつなげる。あの光景はそれを教えてくれた。信仰の光はいつか世界を慈しみ包んでくれるだろう。まるであのピエタの聖母のように。



「天界と現世」。それは美しい顔をしながら恐怖さを訴えていた。

亭午、煌きがステンドガラスの精彩に輝きを放ち蒼然たる教会を飾っていた。言葉を失うかのように私は、それに背を向けつくねんとしていた。情熱の太陽は少しずつ角度を変え一つの壁画の前へ私を導いた。

明白に二分された「天界と現世」。天界は抽象的に表現され、天界の聖人たちは大きく幻想的に描かれているのに対し、現世を表す下部には人はすべて通常の大きさと写実的に描かれていた。壁画は、その時代には信じられないほど豊富な色が使用されていた。沢山の壁画を見てきたが今まで感じたことのないほど壁画は、人、火、十字架、鍵などが表情効果により脅威的に描かれていた。

何故、その絵は恐怖を訴えたのか。人間はわからないものに恐怖を感じる生き物だ。天界もその一つだと思う。祖父は、亡くなる直前、幼い頃の私に「良い行いをすれば天界へ行ける」と言い残した。しかし誰もその事実を知らない。もうすぐ成人する私にもまだ祖父の言っていた天界を理解できないでいる。だから、私の目に映すことの出来た壁画に描かれた天界は、想像力とともに恐怖心を鴻大にしたのだと思う。

祖父は、天界を見たのだろうか。あの時の助言は、なんだったのか。私は、その意味を探するために祖父に導かれたのだろうか。そうだとしたら、私はまだその意味を探さなければならぬ。歳をとりいつか天界の意味がわかった時、私は「オルガス伯の埋葬」を訪れ、私は何を思うのだろうか。



ミュージカル「レ・ミゼラブル」鑑賞 6月4日（火）

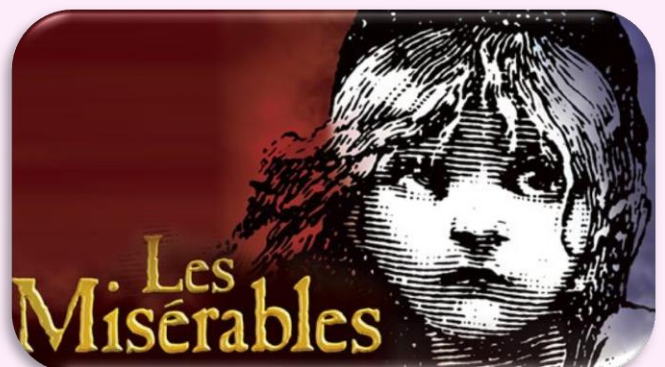
昨年秋の普通コース研修旅行では、フランス王室、フランス革命、ナポレオン、フランス人作家ビクトール・ユゴーとその作品について事前学習をし、ノートルダム大聖堂やヴェルサイユ宮殿を見学してきました。

今年度に入り、世界史や European Studies の授業で、ユゴーの作品「レ・ミゼラブル」の内容や時代背景を学習し、鑑賞日前日には乳井先生の後輩で、舞台演出に携わっている永井誠氏を招いて「レ・ミゼラブル」の舞台・音楽・演出の見どころや舞台裏の話などをお聞きして、十分に気持ちが高まったところで、いよいよロンドンのクイーンズシアターでのミュージカル鑑賞に出かけてきました。

「レ・ミゼラブル」は、パンを1つ盗んで19年間牢獄につながれたジャン・バルジャンが、1人の司祭との出会いで人生を救われ、ジャベール警部に追われながらも、引き取ったコゼットを大切に育て、コゼットが愛するマリウスという青年を学生・市民の暴動から救い出し、コゼットを託して死んでいくという話です。

来月まで上演される、このロンドン公演を最後に「レ・ミゼラブル」の旧演出は終了するとのことで、Japanese Day イベントの忙しい中での外出で生徒も疲れていましたが、みんなで貴重な公演を楽しく鑑賞して来ることができました。

(谷地館)



Weekend Homestay 6月7日(金)～9日(日)

今学期1回目の週末ホームステイに3年生4名、2年生1名が参加し、近隣の家でホームステイをしました。金曜日の夕食後から日曜日の夕食前までの日程で、各家庭で有意義な時間を過ごしてきたようです。

Ko3

I had so good time because they were very kind, I could not speak and listen to English well but they heard my word and if I could not understand what they meant, they repeated same thing for me so I could relax. They gave me a lot of special experiences. For example, I did kickboxing with host mother and her daughter, her daughter was very strong so I was taught by her.

Furthermore, her uncle gave me a ride in his sports car.

I rode such a super car for the first time so I was surprised so much, its acceleration was extremely fast. Host mother gave me very tasty food, she could cook well, also she took me shopping and to a nature park that I had not been to, so I could know such a beautiful and huge green area. Her eldest son spoke to me many times so I felt happy he gave me many chance to talk English and he taught me how to do muscle training also I could listen to his work's story, I got nice time.

They gave me a lot of precious experience.

I appreciate their kindness so much.



Ko3

I did weekend homestay from 7th of June to 9th of June. I had very great time with host family. On Saturday, we went Camden Market in London. That was first time to visit there also, in there I could see many strange things such as clothes, bags and accessories. I really like there because, I enjoyed a lot and clean than I thought.

In this weekend homestay I could feel how British people spend their weekend.

Ko3

I went to a weekend homestay this weekend. It was a very large mansion and I was welcomed by a lovely family and dog.

On the first day, we all had cake and tea while watching TV in the living room. Here, I talked about the next day's schedule and talked about my family.

The next day I made a British breakfast. That was completely different from Japan. It was a rich breakfast including sausage, fried egg and bacon. My host mother liked to cook and all the dishes were very delicious.

After that, we visited the forest with their dog. There, I met many people and dogs. It was good to be able to greet and communicate in English.

That day, I also went to Camden Market. There were many antique shops and it was a place like Harajuku in Japan. I bought earrings and tea. The host father likes to collect tea. So he was interested in the tea I bought. We watched a "UP" movie and singing song at night.

On Sunday, the whole family made lunch. It was a little difficult because I made it while watching the English recipe. But, I was able to do well while being taught.

I was welcomed by a friendly and kind family, and I had various experiences such as British culture. I was able to spend a very enjoyable time.

バスケットボール部練習試合 6月10日(日) VS 立教英国学院

バスケットボール部は週末に英国立教学院へ対外試合に出かけました。普段、なかなか他校と試合をする機会がないので、今回はとても良い経験になりました。

女子は、途中までは接戦でしたが、最後に点差を広げられ、惜しくも負けてしまいました。男子は、英国立教学院と合同チームで試合に臨みましたが、相手チームはとてもレベルが高く、結果は完敗となってしまいました。しかし、3年生キャプテンは1試合を通して、ディフェンス、ゲームメイク、得点源となり、すばらしい姿を見せてくれました。

1学期の間、練習してきて、個人技術や体力は確実に上がっていると思いましたが、まだまだ足りない部分があることを痛感させられました。試合後に悔しがっている選手もいましたが、この結果から個人、チームでの課題がたくさん見つかり、価値のある試合になりました。悔しかった気持ちを忘れずに練習でのモチベーションにしていきたいと思います。(千晶)



水曜コース (英国理解コース)

プーさんの森 5月22日(水)



英国理解コースでは5月22日にくまのプーさんの森に出かけました。Winnie the Poohの話に出てくる森は、本当に実在する場所であることは意外に知られていません。作者について、またその話の背景について学習した後、プースティックのゲームが行われる話を実際読んでから森に出かけていきました。学園から車で約2時間かかったのですが、ゆっくりとは散策できませんでしたが、イーヨの家らしきものを覗いたり、プーブリッジで皆で枝を投げてゲームをしたりしました。更にプーコーナーと言うプーさんのキャラクターが所狭しと並んでいる小さな店に寄ることもでき、まさに英国ならではの体験学習ができました。(久保)



アフタヌーンティ 6月12日(水)

英国理解コースでは6月12日、恒例のアフタヌーンティに出かけて来ました。アフタヌーンティは7代ベッドフォード伯爵夫人がお茶会を開いたことから始まったと言われてますが、サンドイッチや紅茶の発祥地イギリスでは色々な趣向を凝らしたアフタヌーンティが流行っています。今回はケンジントンホテルのランドマークティーを体験しました。ビッグベン、シャード、ガーキン、電話ボックスといったロンドンのランドマークがそのままケーキになっていて、皆で喚声を上げてしまいました。本当に至福のひと時でした。ご馳走様！(久保)



水曜コース (Maina コース)

5月29日 (水)

水曜の Maina コースでは、「宗教」をテーマに、イギリスで存在する宗教を勉強しています。イギリスはご存知のように、様々な人種と宗教



を持つ市民が共に生活することを受け入れてきた国です。帝京学園生が、その国で生活する学生の一人として、実際に現地の方から宗教を学ぶことによって、理解、尊重という教養をつけることを、このコースの目的としています。

4月は、コースの15名はチームに別れ、世界の主な五大宗教をそれぞれ研究し、発表をしてきました。そして今回は、帝京学園から約10分ほど離れたHindu教のお寺へ訪れ、Hindu教とはどういう宗教で、お寺へ来る際はどのような崇拝をするのか等、実践的なお話をしていただき、大変貴重な体験をすることができました。次回はイスラム教徒のモスクへお邪魔します。日本ではなかなか馴染みの薄い体験ではありますが、生徒たちは興味深く話を聞き、質問をする姿が見られ、今後も他の宗教を実践的な面から理解を養うことを期待したいです (Maina)



6月12日 (水)



12日水曜の Maina コースでは、ヒンディー教に続き、イスラム教徒のモスクにお邪魔してきました。

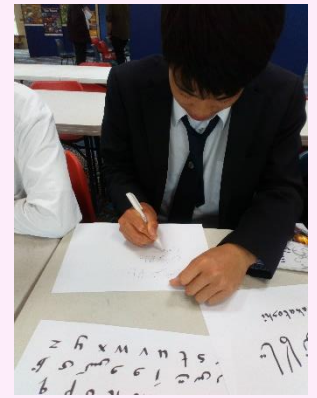
イングランドには、モスクがおよそ1700あるといわれており、たくさんのイスラム教徒の方がすんでいることから、帝京生も町や現地高等に行くと、信仰者に出会うことがあります。しかし、実際にはどのような宗教で、どんな人たちなのかをよわからずに過ごしていたのではないのでしょうか。

今回は、地元のモスクへ許可を頂き、イスラム教の知識や、礼拝についてお話を伺いました。そして実際に礼拝している様子を見せてもらうだけでなく、伝統衣装やアラビア語のアクティビティ等、実体験から宗教を学ぶとても貴重な時間をいただきました。

全てが英語ではありながら、生徒達はとても興味深く話を聞き、また日本についても沢山の質問をされ、コミュニケーション力を伸ばした瞬間でもありました。

来週はカトリック教会へお邪魔し、その宗教と人々の生活について学びます。

(Maina)



水曜コース Community Volunteer 毎週水曜日



As part of the Volunteer in the Community Course held on Wednesday afternoons, students have been doing voluntary work with local charities. Their work involves serving customers, stacking shelves, sorting and pricing clothes. All the students' managers have praised the students for their hard work and the students have learned about the importance of volunteers in our society. It has also been a good chance for them to practice their English skills outside the school. Well done everybody! (Richard)



1学期も残すところあと1ヶ月を切りました。時間が経つのはあっという間で1年生は少しずつサッカー部に慣れてきて、2年生も少しずつ先輩としての自覚が出てきて、3年生は進路に向けて日々頑張っています。先日、9月から始まる Buckinghamshire 州の Schools Cup U-18 の抽選会に参加してきました。まだ、対戦相手などは発表されていませんが我々の目標である「Bucks 優勝」を叶えるためにはすべての試合で勝利が必要になってきます。目標に向かって1日たりとも無駄にしないように頑張っていきたいと思います。(三谷)

サッカーコース・部



男子寮より

寮だより

女子寮より

「いち に、いち に。」間近に迫った体育祭の団体競技の練習の元気な掛け声が、紅組、白組それぞれ芳賀、加藤両リーダーのもとグラウンドそして体育館からこ寮のオフィスまで聞こえて来ます。どちらも頑張ってください。今年の6月は例年に比べると今一つ気温が上がらず、寒い感じがします。そのせいもあってか熱を出して体調を崩す寮生もあり、体調管理に十分気を付けるように言っております。体育祭、期末考査、ウインブルドンでのテニス観戦そして夏休みの退寮、帰国準備と忙しくなります。夏休み前には今いる部屋を空っぽにしなければならず、日ごろからいる物いらぬ物の整理をするように言っておりますが、正直言ってこれがなかなか難しいです。有意義な夏休みを迎えてください。また9月に会いましょう。(岩泉)

中間考査も終わりホッとしたのもつかの間、次々やって来る行事や準備に忙しい女子寮です。忙しい毎日ですが、毎週水曜日にはティータイムを行っています。スタディタイムが終わった女子寮のラウンジに、10種類ほどの紅茶とお湯を用意しています。生徒たちはラウンジで紅茶を飲みながらおしゃべりをしたりTVを見たり、部屋に戻ってリラックスしたりとほっこりした時間を過ごしているようです。夏休みまであと少し、毎日の授業や行事、寮生活でたくさんの思い出をつくってほしいです。くれぐれも心と体を大切に、期末考査で力が発揮できるようにサポートしていきたいと思います。(中本)



寮企画 Thorpe Park 5月25日(土)

寮の企画として毎年恒例の Thorpe Park へ希望者32名で行きました。とても良い天気にも恵まれ暖かい日差しの中、ジェットコースターや急流スライダーに乗って豪快な水しぶきを浴びたり、お目当ての景品を狙ってボールゲームに熱中したりと、日焼けしながら初夏の遊園地を存分に楽しめました。(山口)



